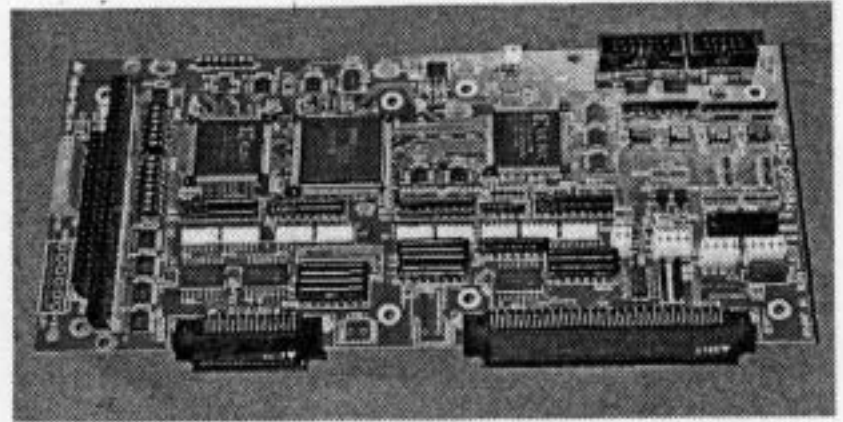


わが社の
イチ押し

東京都江東区 ハイパーテック
モーター制御向け回路基板「PC104D」



生活支援ロボットといわれる、人間に近い形や機能をもつロボットが企業や大学で次々と開発されている。高度なコミュニケーション機能を備え、一般の産業用ロボットよりも複雑で微妙な動きができる。

回路設計の自由度アップ

次世代ロボットのスムーズな動作は、複数のモーターを細かく正確に制御するモーションコントロールシステムが多く使われている。ハイパーテック（東京都江東区）は、このシステムを受託開発し、大手企業

や研究機関、大学に導入している。

例えば大阪大学で使われている「めまいの検査装置」。患者をいすに座らせ、医学的に計算されたさまざまな動きを行わせ、めまいの状態を検査する。

研究中のロボットや特殊な装置には、パソコンの機能をもつ回路基板（ボード）が組み込まれることも多い。特別に製作するとコストがかかり、大きさや端子の位置を決め、それに準じ

た製品が使われている。

小型機器の組み込み用には、九六×九〇ミリの「PC104」という規格のボードがよく利用されるが、配線がしにくく、重ねて使える数にも制限がある。

そこで、ハイパーテックの斎藤取社長は、「PC104」の倍のサイズの「PC104D」という新しいボード規格を提案している。「PC104」規格のボードを上に乗せたうえで、他のボードも付けられるなど、回路設計の自由度が大幅にアップする。

ハイパーテックでは四軸モーター制御向けの「PC104D」Ⅱ写真Ⅱなど3つの製品を開発して、販売を開始。まずは実績をつくり、「世界の標準製品にしたい」と斎藤社長は張り切っている。（問い合わせ ☎03・3846・3801）